

用語の解説

(令和6年4月版)

用語の解説

かな	文字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
あ	あ	あいしーていー	情報通信技術 (Information and Communication Technology) の略。林業分野では、森林情報のクラウド化による情報共有や、レーザ計測による樹種や材積等の林分状況把握などに活用されている。	NO IMAGE
		ICT		
あ	い	いーえすでいー	Education for Sustainable Development の略。「持続可能な開発のための教育」を意味する。	NO IMAGE
		ESD		
あ	い	いくせいたんそうりんせぎょう	伐採する区域をあらかじめ定め、その区域内の樹木の全部又は大部分を一度に伐採し、そのあとに一斉に植林を行うこと等により、年齢や高さのほぼ等しい樹木から構成される森林(単層林)を造成する森林づくりの方法。	
		育成単層林施業		
あ	い	いくせいふくそうりんせぎょう	伐採区域内の樹木を部分的に伐採し、その空いたスペースに植林を行うこと等により、年齢や高さの異なる樹木から構成される森林(複層林)を造成する森林づくりの方法。	
		育成複層林施業		
あ	い	いちばつさんざん	列状間伐の伐採方法であり、3列を残して1列を伐採すること。	
		1伐3残		
あ	い	いっかんさぎょうしすてむ	伐採から植栽までを一体的に行う作業システムのこと。伐採時に使用した林業用機械等を活用し、地拵えから植栽までの省力化、効率化を図ることでコストの低減、工期の短縮が可能。	
		一貫作業システム		
あ	う	うえあらぶるかめら	ヘルメットや体に装着や着用可能なデジタルカメラの総称であり、一般的なモバイル端末を使用することも可能。	
		ウェアラブルカメラ		
あ	え	えこでいーあーるあーる	Ecosystem-based Disaster Risk Reduction の略で、自然環境を保護して災害リスクを軽減する取組。森林の持つ山地災害防止機能・土壌保全機能や、海岸林の持つ防風や津波被害の軽減といった防災機能を活用している。	NO IMAGE
		Eco-DRR		
あ	え	えすでいーじーず(じぞくかのうなかいはつもくひょう)	Sustainable Development Goals の略で、平成27年9月に採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で示された国際目標。17の目標と169のターゲットで構成される。国有林野の管理経営は、目標6、13、15等様々な目標に貢献する。	
		SDGs(持続可能な開発目標)		
あ	え	えだうち	節のない木材を生産すること等を目的に、立木の枝を切り落とす作業。	
		枝打ち		
あ	え	えぬがたゆういんほかくわな	和歌山森林管理署等において実証中の改良型罠の一つ。作業道などにウサギの餌を置き、誘引するとともにネットを設置してウサギの通り道を限定させ、くくり罠にかかりやすくする手法。名前は、上から見たネットの形がN型に見えることによる。	
		N型誘引捕獲罠		
あ	え	えふあーるでいー(ろもうせつけいしえんそふと)	路網設計支援のためのソフトウェア。航空レーザ計測で得られた精緻な地形データ等を活かして、林道や森林作業道などの林業用路網の線形案を設計することができる。名称は「Eorest Road Designer」の略。	NO IMAGE
		FRD(路網設計支援ソフト)		
あ	え	えりーとつりー	成長が良く通直性等の形質が優れたDNAを持っていると思われる木を精英樹に指定し、クローンを育てたり、種子を採取しているが、この精英樹同士を交配して得られた個体の中から選抜した、より成長等に優れた第二世代以降の精英樹の総称。	
		エリートツリー		
あ	え	えるぶいえる(たんぱんせきそうざい)	Laminated Veneer Lumber の略。丸太から薄くむいた板(単板)の繊維(木目)の方向を揃えて接着したもの。家具、建具、構造材等に利用される。	
		LVL(単板積層材)		
あ	え	えんてい	川水を他に引いたり、流れを緩やかにしたり、また釣り場をつくらりするために築かれる堤防で、ダムより小規模なもの。	
		堰堤		
あ	お	おうしゅうざい	欧州(ヨーロッパ)から輸入された木材の総称。その多くが製材品であり、主に集成材を構成する板材(ラミナ)として使用。ホワイトウッド(オウシュウトウヒ等)等。	NO IMAGE
		欧州材		

用語の解説

かな	漢字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
あ	お	おろそがぞう	航空カメラで撮影された空中写真は、レンズの中心から対象物までの距離の違いにより、写真上の像に位置のズレが生じる。オルソ画像は、写真上の像の位置のズレをなくし空中写真を地図と同じように真上から見たような傾きのない正しい大きさで位置に表示される画像に変換したものの。	NO IMAGE
		オルソ画像		
あ	お	おくちせきりょうさんち	中国山地や紀伊山地など、ある地域の背骨に相当するような山地で、分水界となるもの。	
		奥地脊梁山地		
あ	お	おんしつこうかがす	地球から宇宙への赤外線放射エネルギーを大気中で吸収して熱に変え、地球の気温を上昇(地球温暖化)させる効果を有する気体の総称。代表的なものに二酸化炭素(CO2)、メタン(CH4)、一酸化二窒素(N2O)等がある。これらの排出には人間の生活・生産活動が大きく関与している。	
		温室効果ガス		
か	か	かーぼんにゅーとらる	バイオマスを燃焼すること等により放出される二酸化炭素は、生物の成長過程で光合成により大気中から吸収した二酸化炭素であることから、バイオマスは、ライフサイクル全体の中では大気中の二酸化炭素を増加させない。この特性を称して「カーボンニュートラル」という。また、温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させ、排出量を全体としてゼロにすることを指す。「排出量を全体としてゼロ」とは、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量から、植林・森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味する。	
		カーボンニュートラル		
か	か	かいしつりぐにん	改質リグニンとは、日本固有の樹木であるスギから取り出されたバイオ由来の新素材のこと。リグニンとは、木材の約3割を占める成分で、木材を固くしっかりした構造にする役割があるが、樹種や生育環境に適応した進化により多様な構造を持ち、同じ性質の材料を安定的に作る事が難しかった。研究により、スギは安定供給に適した比較的均質なリグニンを持つことがわかり、物理特性を改質したリグニンの製造技術の確立に成功し、工業材料化が可能となった。	NO IMAGE
		改質リグニン		
か	か	かいばつ	一定範囲の樹木を一時に全部又は大部分伐採するもの。育成単層林施策を行う際の伐採方法。	
		皆伐		
か	か	かかりぎ	チェーンソーで伐採した木が予期せぬ方向に倒れ、他の立木に引っ掛かり、木の先端が地上まで落ちてこない状態のこと。	
		かかり木		
か	か	かこいわな	獣害対策の1つで、囲い状の柵の中に複数の野生動物を閉じ込めて一度に捕獲する罠のこと。	
		囲い罠		
か	か	かせんしゅうざい	空中に張ったワイヤーロープを使って、伐採した木を吊り上げ林道端等に運ぶ方法。	
		架線集材		
か	か	がっこうりん	自然体験や環境教育などで使用するため、学校が保有する森林。	
		学校林		
か	か	かっちゃく	コンテナで育成した苗が山に植え付けた時に根付いて成長すること。コンテナ苗は、活着率や初期成長に優れている。	NO IMAGE
		活着(コンテナ苗の)		
か	か	かわかみ、かわなか、かわしも	林業・木材産業における、木材の生産から加工、利用までの流通体制のことで、川上は造林・素材生産部門など、川中は製材・加工部門など、川下は住宅建築部門や消費者などが該当する。	
		川上、川中、川下		
か	か	かんこうぞうりんち	旧公有林野等官行造林法(大正9年法律第7号)に基づき、国が公有地又は私有地の所有者と契約を結び、国が費用を負担して森林整備を行い、伐採等の収益を土地所有者と分け合う森林のこと。	
		官行造林地		
か	か	かんそうざい	建築用材などとして使用する前に、あらかじめ乾燥させた木材。木材に含まれる水分を一定の水準まで減少させることにより、寸法の狂いやひび割れ等を防止し、強度を向上させる効果がある。乾燥方法により、天然乾燥材(AD材)と人工乾燥材(KD材)に区分される。	
		乾燥材		

用語の解説

かな	漢字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
か	か	かんばつ	育成段階にある森林において樹木の混み具合に応じて育成する樹木の一部を伐採(間引き)し、残存木の成長を促進する作業。この作業により生産された丸太が間伐材。一般に、除伐後から、主伐までの間に育成目的に応じて間断的に実施。	
		間伐		
か	き	きのうるいけい	森林の管理経営を行ううえで、重点的に発揮させるべき機能を5つの類型に区分したものの。山地災害防止タイプ、自然維持タイプ、快適環境形成タイプ、森林空間利用タイプ、水源かん養タイプに区分される。	
		機能類型		
か	き	きのぶんかをささえるもり	歴史的木造建造物や伝統工芸など、「木の文化」を後世に継承していくために必要な木材や樹皮などの資材を供給する森林を守り育てるため、国民参加の森林づくりの活動のフィールドとして、国有林野を一定期間活用する制度のこと。	
		木の文化を支える森		
か	く	くくりわな	鳥獣の通り道等へ設置し、鳥獣の足首をワイヤーでくくる仕掛けの罠のこと。	
		くくり罠		
か	く	ぐりんせいちょう	自然環境や自然資源への負担を軽減しつつ、経済的成長も見込んでいくこと。自然資源と生態系を適正に保全・活用し、持続可能な成長を目指す。	NO IMAGE
		グリーン成長		
か	く	くんじょう	薬剤等ていぶして殺虫すること。 松くい虫やナラ枯れの被害により枯死した木を伐倒したあとビニールで包んで薬剤によりくん蒸し、木材の中にいる幼虫等を駆除する。	
		くん蒸		
か	け	けいかいじゆんけん	国有林の周囲に設置されている境界標(杭)及び境界線の状況を森林官等が定期的に点検し境界標及び境界線の位置を明らかにする業務。	
		境界巡検		
か	け	けいかんこう	治山工事の一つで、溪流に治山ダム工等の施設を設置し、流れてくる土砂を貯め、台風や大雨時に土砂が一度に流れ出さないようにすることや貯めた土砂で両岸の山を支えて山崩れを防止することを目的とする。流木を補足する治山ダム工の設置も推進している。	
		溪間工		
か	こ	こうえきてききのういじぞうしんきょうていせいど	周囲を国有林に囲まれているなど、国有林と一体として整備及び保全を行うことが相当と認められる民有林について、森林管理局長と森林所有者等が協定を締結し、当該民有林の整備及び保全を行うことができる制度のこと。(「森林共同施業団地」の場合と異なり、この制度では民有林内の事業も、国有林の事業として一体的に実施することが可能。)	
		公益的機能維持増進協定制度		
か	こ	こうえきてききのうべつせぎょうしんりん	森林の有する公益的機能の高度発揮が求められ、森林の樹種構成、林道の整備状況等地域の実情からみて、これらの公益的機能の維持増進を図るための森林施業を積極的かつ計画的に実施することが必要かつ適切と見込まれる森林の区域のこと。	NO IMAGE
		公益的機能別施業森林		
か	こ	こうしん	伐採等により樹木が無くなった箇所において、植林を行うことや自然力の活用等により森林の世代が替わること。	
		更新		
か	こ	こうせいのうりんぎょうきかい	従来のチェーンソーや集材機等と比べて、作業の効率や労働強度の軽減等の面で優れた性能をもつ林業機械。主な高性能林業機械は、フェラーバンチャ、スキッド、プロセッサ、ハーベスタ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤーダ。	
		高性能林業機械		
か	こ	ごうはん	丸太から薄くむいた板(単板)を、繊維(木目)の方向が互い違いになるように交互に重ね、接着したもの。	
		合板		
か	こ	こうようじゆ	樹木を葉の形態で分類した名称で、ケヤキ、ブナ、ナラなど扁平な葉をもった樹木をいう。	
		広葉樹		
か	こ	こくゆうりん	国が所有している森林のこと。主に農林水産省林野庁が管轄し、各地方森林管理局の下の森林管理署・支署、森林管理事務所によって管理されている。	
		国有林		

用語の解説

かな	用語(表現)	用語の解説	イメージ
かこ	こくゆうりんちよつかつちさんじぎょう 国有林直轄治山事業	国有林内において、集中豪雨や台風などにより被災した山地の復旧整備や機能の低下した森林の整備等を行う事業のこと。	
	こくゆうりんもにたー 国有林モニター	国有林野に関心のある国民へ幅広く情報を提供するとともに、アンケートや意見交換等を通じて頂いた意見・要望を管理経営に活用するための制度。モニターは、公募により選定。イメージは現地見学会の様子。	
かこ	こくゆうりんや 国有林野	国が所有している森林と森林以外の草生地などを合わせたもののこと。	
	こばやししきゆういんほかくほう 小林式誘引捕獲法	林野庁の職員が開発した改良型わなの一つ。くり罟の周囲に誘引するための餌をドーナツ状に設置し、前足が罠にかかりやすくなるよう工夫することで、シカに警戒されにくく簡単に効率よく捕獲することができる。 円の中央から、罠、障害物(石)、誘引餌(米ぬか等)→	
かこ	こんてななえ コンテナ苗	マルチキャビティコンテナ(根巻き防止などの工夫が施されたプラスチック製の苗木生産用容器)で育成した苗木のこと。根の不適切な成長(根巻き)の防止や成長しすぎた根の切断(根切り)作業等が不要となるよう設計されており、一般的に裸苗に比べて育苗期間が短いことに加え、育苗作業の効率化や労働負荷の軽減が可能。また、通常の植栽適期(春や秋)以外でも高い活着率が見込めることから植栽適期の拡大が期待できる。	
	さいがいかんれんきんきゆうちさんじぎょう 災害関連緊急治山事業	災害により新たに発生し、又は拡大した荒廃山地又はなだれ発生地につき、年度途中から緊急に行う復旧整備に係る保安施設事業。	
ささ	さぎょうどう 作業道	林道を補完し、除間伐等の作業を行うために作設される簡易な構造の道。	
	さとやまりん 里山林	居住地近くに広がり、薪炭材の伐採、落葉の採取等を通じて地域住民に利用されている、あるいは利用されていた森林。	
ささ	ざんぞんかたわく 残存型柵	解体を必要としない型枠のこと。 丸太残存式型枠は、治山ダム等のコンクリートを打設(打ち込む)する際に使用する型枠に丸太(間伐材)を使用したもの。	
	さんちさいがい 山地災害	集中豪雨や地震等により、山地の崩壊・土石流・地すべり等が発生すること。	
ささ	さんぶくこう 山腹工	治山工事の一つで、土砂崩れを起こした山の斜面をこれ以上崩れないように安定させることが目的。	
	さんぶくほうかい 山腹崩壊	山の斜面が突然崩れ落ちる現象のこと。=山くずれ。	
さし	じーあいえず GIS	Geographic Information System(地理情報システム)の略で、地図や空中写真等の森林の位置や形状に関する図面情報と、林種や林齢等の文字・数値情報を、コンピューター上で総合的に管理、分析、処理するシステム。	
さし	しーえすあーるかつどう CSR活動	Corporate Social Responsibilityの略で、企業の社会的責任の意。人権に配慮した適正な雇用・労働条件、消費者への適切な対応、環境問題への配慮、地域社会への貢献など、企業が株主や消費者等の利害関係者と信頼関係を構築し、自らの事業活動を継続していく上で果たすべき責任のこと。	NO IMAGE
	しーえすりつたいざ CS立体図	長野県林業総合センターが開発考案した地形表現図であり、地形図から判読できる地形量(標高・傾斜・曲率)を異なる色調で彩色し、複数を重ねて透過処理することで立体表現した図法。	NO IMAGE

用語の解説

かな	漢字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
さ	し	しーえるていー(ちようこうしゆうせいばん)	Cross Laminated Timberの略。一定の寸法に加工されたひき板(ラミナ)を繊維方向が互い違いになるように重ね合わせ接着した板や柱。	
		CLT(直交集成板)		
さ	し	しかひがいたいさく	シカによる、スギ・ヒノキ等の苗木の食害、樹皮剥ぎ、下層植生への影響などの森林被害に対して実施している防護柵の設置や捕獲等の対策の総称。	
		シカ被害対策		
さ	し	じごしらえ	苗木を山に植栽する前に、苗木の生育環境を良くしたり、植えやすくするため、伐採した木の枝や、灌木を取り除くなどの作業のこと。	
		地拵え		
さ	し	しすてむはんばい	「国有林材の安定供給システムによる販売」の略称。伐採に伴い生産された間伐材等について、国産材需要拡大や加工・流通の合理化等に取り組む集成材・合板工場や製材工場等との協定に基づいて国有林材を安定的に供給すること。	
		システム販売		
さ	し	じすべり	粘土質の土をすべり面として山の斜面がゆっくり移動する現象のこと。	
		地すべり		
さ	し	したがり	植林した苗木等の成長を妨げる雑草や灌木を刈り払う作業。通常、植林後の数年間、毎年、夏期に行う。	
		下刈り		
さ	し	しちようそんしんりんせいびけいかく	「森林法」の規定に基づき、市町村が管内の民有林を対象に、森林・林業関連施策の方向や造林から伐採までの森林の施業及び保護等の規範を示し、適切な森林整備等を推進するために5年ごとにたてる10年間の計画。	NO IMAGE
		市町村森林整備計画		
さ	し	じびえ	フランス語で、食材として捕獲した野生鳥獣のこと。	
		ジビエ		
さ	し	しゃかいこうけんのもり	地球温暖化防止など地球環境保全への関心が高まっている中、企業などにおいても社会貢献活動の一環として森林の保全・整備に取り組みたいという要請に応えるため、企業などと森林管理署長などが協定を結び、森林整備活動のフィールドとして国有林を提供するもの。	
		社会貢献の森		
さ	し	しゆうせいざい	板材(ラミナ)の小片を繊維(木目)の方向が平行になるように、長さ・幅・厚さの各方向に接着した製品。柱材等の構造用集成材と階段材、床材等の造作用集成材に大別される。接着することにより、様々な大きさの柱を製造することが可能となったため、木造大型建築物が増加した。	
		集成材		
さ	し	じゆうてんくいきにじゆんじたこくゆうりん	都道府県が設定する「スギ人工林伐採重点区域」を含む市町村に所在する国有林。林野庁では、当該国有林における伐採・植替えを効果的・集中的に実施することとしている。	NO IMAGE
		重点区域に準じた国有林		
さ	し	じゆうこうばつ	育成複層林において、下層の樹木の成長環境と光環境を確保するために上層の樹木を抜き伐りする作業。	
		受光伐		
さ	し	じゆもくさいしゆけんせいど	国有林野の一定の区域(樹木採取区)において立木を一定期間、安定的に伐採できる樹木採取権を民間事業者を設定できる制度。地域の民間事業者が対応可能な200~300ha程度・年間数千㎡程度の素材生産量を想定し、権利の期間は10年を基本に運用。	NO IMAGE
		樹木採取権制度		
さ	し	しゆばつ	次の世代の森林の造成(更新)を伴う森林の一部又は全部の伐採。	
		主伐		
さ	し	じよばつ	人工林で育てようとする樹木の成長を妨げる他の樹木を刈り払う作業。通常、育てようとする樹木の枝葉が互いに接する状態になるまでの間に行う。	
		除伐		

用語の解説

かな	用語(表現)	用語の解説	イメージ
さし	しんこうこんこうりん	針葉樹と広葉樹が混じり合った森林。	
	針広混交林		
さし	じんこうぞうりん	苗木を植えたり、種子の播付けなど、人の手により森林を造成すること。	
	人工造林		
さし	じんこうりん	人工造林によって成立した森林。	
	人工林		
さし	しんようじゅ	樹木を葉の形態で分類した名称で、スギ、ヒノキ、マツ類など細くとがった葉をもった樹木をいう。	
さし	しんりんかんきょうきょういく	森林内での様々な活動体験等を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深めること。	
さし	しんりんかんきょうじょうよぜい	森林経営管理制度の運用と温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保することを目的とした国税。森林環境税の収入額全額に相当する額が、市町村や都道府県に向けて譲与される。	
	森林環境譲与税		
さし	しんりんかんきょうぜい	森林経営管理制度の運用と温室効果ガス排出削減目標の達成や災害防止等を図るための森林整備等に必要な地方財源を安定的に確保することを目的とした国税。一人あたり年額1,000円の賦課徴収を行い、法律の要件に基づき、市町村及び都道府県に森林環境譲与税として再分配される。	
さし	しんりんきゅうしゅうげんたいさく	地球温暖化防止対策の一つであり、森林整備により二酸化炭素(CO2)の吸収量を確保するための対策。平成2年以降に間伐等の森林経営活動等が行われた森林のCO2吸収量を計上可能としている。	
	森林吸収源対策		
さし	しんりんきょうどうせぎょうだんち	地域における施業集約化の取組を支援するため、民有林と連携することで事業の効率化や低コスト化が図られる区域について、民有林と連結した路網の整備と相互利用の推進、計画的な間伐等の実施、民有林材との協調出荷などに取り組む団地(森林)のこと。森林整備協定を締結する際、団地の設定が必要となる。	
さし	しんりんくらうど	各ユーザ(都道府県、市町村、森林組合等)で管理していた森林情報を、インターネット(クラウド)上で一元的に管理するシステム。また、GISの機能を持ち、属性情報や地図情報を管理する機能を持つ。	NO IMAGE
	森林クラウド		
さし	しんりんけいえいかんりせいど	経営管理が適切に行われていない森林について、その経営管理を林業経営体や市町村に委ねる制度のこと。	NO IMAGE
さし	しんりんけいえいけいかく	「森林所有者」又は「森林の経営の委託を受けた者」が、自らが森林の経営を行う一体的なまとまりのある森林を対象として、森林の施業及び保護について作成する5年を1期とする計画のこと。	NO IMAGE
	森林経営計画		
さし	しんりんさぎょうどう	特定の者が森林施業のために継続的に利用する道であり、フォワーダ等の林業機械や2トン積程度の小型トラックの走行を想定するもの。	
	森林作業道		
さし	しんりんせいび	森林施業とそのために必要な施設(林道等)の作設、維持を通じて森林を育成すること。	
	森林整備		
さし	しんりんせいびすいしんきょうてい	隣接する国有林と民有林との間で森林施業の一体化を図るため森林施業団地を設定し、協調して合理的な路網の整備及び効率的な森林整備等を推進し、地域の林業の振興に協力する協定。	
さし	しんりんせぎょう	目的とする森林を造成、維持するために行う植林、下刈り、除伐、間伐等の森林に対する人為的な働きかけ。	

用語の解説

かな	漢字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
さ	し	しんりんそうごうかんりし	森林・林業に関する専門的かつ高度な知識及び技術並びに現場経験を有し、長期的・広域的な視点に立って地域の森林(もり)づくりの全体像を示すとともに、「市町村森林整備計画」の策定等の市町村行政を技術的に支援する人材。平成25年度から資格試験が開始。	
		森林総合監理士(フォレスタ)		
さ	し	しんりんのもつためんてききのう	地球温暖化の防止、国土の保全、水源かん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承、木材の生産等の森林が持つ様々な機能。	
		森林の持つ多面的機能		
さ	し	しんりんぼらんていあ	植樹・下刈り・間伐・枝打ち・歩道整備などの森林整備や森林パトロール作業をボランティアにより行うこと。	
		森林ボランティア		
さ	し	しんりん・りんぎょうきほんけいかく	「森林・林業基本法」の基本理念の実現に向けて、森林及び林業に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、同法に基づき策定した計画。森林及び林業施策の基本方針、森林の持つ多面的機能の発揮ならびに木材の供給及び利用に関する目標、政府が講ずべき施策を明記。	NO IMAGE
		森林・林業基本計画		
さ	し	しんりん・りんぎょうきほんほう	森林の持つ多面的機能の発揮、林業の持続的かつ健全な発展を基本理念とする政策を国民的合意の下に進めていくため、その実現を図る基本的事項を定めた法律。平成13年7月にそれまでの「林業基本法」を改正して成立。	NO IMAGE
		森林・林業基本法		
さ	し	しんりん・りんぎょうこうりゆうけんきゆうはっぴょうかい	公益的機能の高度発揮のための森林施業、民有林経営への支援となる林業技術や手法の確立、森林環境教育の推進、民有林・国有林が連携した森林・林業の再生に向けた取組や業務を通して得た創意工夫の成果の普及・定着を図ることを目的とした成果の発表会。	
		森林・林業交流研究発表会		
さ	す	すいげんかんようきのう	森林の土壌が降水を貯留し、河川へ流れ込む水の量を安定させて洪水を緩和する機能や、川の流量を安定させて濁水を緩和する機能、雨水が森林土壌を通過することにより浄化される機能のこと。	
		水源涵養機能		
さ	す	すいんぐやーだ	建設用ベースマシンに集材用ウインチを搭載し、旋回可能なブームを装備する集材機。(swing: 回転する、yarder: 集材機)	
		スイングヤード		
さ	す	すぎじんこうりんばっさいじゅうてんくいき	花粉発生源であるスギ人工林の伐採・植替えを効果的・重点的に実施するため、人口の多い都市部周辺において都道府県が設定する森林の区域。	NO IMAGE
		スギ人工林伐採重点区域		
さ	す	すきつだ	装備したグラップル(油圧シリンダーによって動く一對の爪)により、伐倒木を牽引式で集材する集材専用の自走式機械。(skid: 引きずって運ぶ)	
		スキッド		
さ	せ	せいえいじゆ	成長がよく、幹がまっすぐで、病気や虫の害がない、優れた樹木のこと。現在は、精英樹同士を交配して、さらに成長などが優れた第二世代の精英樹「エリートツリー」の選抜を進めている。	
		精英樹		
さ	せ	せいぶつたようせい	すべての生物(動物、植物、菌類等)の間に違いがあり、相互に影響を与えていること。(生態系の多様性、種間(種)の多様性、種内(遺伝子)の多様性という3つのレベルで多様性が存在)	
		生物多様性		
さ	せ	せかいしぜんいさん	世界的な見地からみて鑑賞上、学術上又は保存上顕著な普遍的価値を有する特徴ある自然の地域、脅威にさらされている動植物種の生息地、自然の風景地等を対象とし、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づいて作成される「世界遺産一覧表」に記載された物件。	
		世界自然遺産		
さ	せ	せかいぶんかいさん	世界的な見地から見て歴史上、美術上、科学上顕著で普遍的価値を有する記念工作物、建造物、遺跡等を対象とし、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」に基づいて作成される「世界遺産一覧表」に記載された物件。	
		世界文化遺産		
さ	ぜ	ぜつめつきぐしゆ	絶滅の危機にある生物種のこと。 絶滅の危機に瀕している種 → 絶滅危惧Ⅰ類 絶滅の危機が増大している種 → 絶滅危惧Ⅱ類 イメージは福井県南条郡南越前町の夜叉ヶ池だけに生息するヤシヤゲンゴロウ。	
		絶滅危惧種		

用語の解説

かな	文字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
さ	せ	せるろーすなのふあいばー	木を構成する繊維をナノレベルまで細かくほぐした素材。軽くて丈夫で、表面積が大きく粘性が高いなどの特徴的な性質を持っているために、新しい素材として注目を集めている。	
		セルロースナノファイバー(CNF)		
さ	せ	ぜんぱつ	天然更新に必要な上層木を保残しておおむね70%以内の伐採率により森林を構成する林木の一定のまとまりを一度に伐採する方法。	
		漸伐		
さ	そ	ぞうざい	伐採した木を適当な長さで伐って木材にすること。	
		造材		
さ	そ	そうせいじゆ	スギ・ヒノキの従来造林樹種に比べて、成長が早く・短伐期で収穫できる樹種で、「センダン」や「コウヨウザン」などがある。	
		早生樹		
さ	そ	そざいせいさん	樹木を伐採し、枝葉や梢端部分を取り除き、丸太に加工する工程。	
		素材生産		
さ	そ	そざいはんばい	国有林自らの管理の下で立木を伐採し、丸太に加工したうえで、販売する方法。	
		素材販売		
た	た	たくぱつ	森林内の樹木の一部を抜き伐りする主伐の一種。	NO IMAGE
		択伐		
た	た	たよなかつどうのもり	植栽や下草刈りなどの森林整備はおこなわず、森林パトロール、歩道の草刈り、美化活動などの森林の保全活動を行いたいという要請に応えるため、民間団体などと森林管理署長などが協定を結び、森林保全活動を行う場としてフィールドを提供するもの。	
		多様な活動の森		
た	た	たわーやーだ	架線集材に必要なワイヤーを支える柱(通常は現地の樹木を使う)の代わりとなる人工支柱を装備した移動可能な集材車。	
		タワーヤーダ		
た	た	たんぼくほごちゅーぶ	シカなどからの食害防護のために、植栽木一本ごとに取付けるチューブ。	
		単木保護チューブ		
た	ち	ちいきかんりけいえいけいかく	「国有林野の管理経営に関する法律」に基づき、国有林野の管理経営の考え方や伐採等の事業の総量等について、森林管理局長が流域ごとにたてる5年間の計画。	NO IMAGE
		地域管理経営計画		
た	ち	ちさんじぎょう	保安林を守り育てることによって、山崩れなどの山地災害から住民の生命・財産を守ることや森林が持つ水源のかん養機能を高めたり、さらには緑豊かな生活環境の保全・形成等を行う事業のこと。	
		治山事業		
た	ち	ちさんだむ	土石流などの過度な土砂流出を制御し、荒廃した森林や溪流の復旧を図る施設のこと。	
		治山ダム		
た	ち	ちじょうさんぶ	森林病害虫を駆除するため、地上から動力噴霧機等を利用して薬剤を健康な樹木に散布すること。	
		地上散布		
た	ち	ちじょうがたれーざすきやな	スキャナから照射されたレーザによって、対象物の空間位置情報を取得する計測手法。ごく短時間に大量かつ「面」的な「3次元空間の点群座標」を取得する計測技術。	
		地上型レーザスキャナ		
た	ち	ちようきくせいじゆんかんせぎょう	育成複層林の造成等を進める観点から、皆伐をせず、抜き伐りを繰り返しつつ、徐々に更新を行うことにより長期間にわたって森林状態を維持し、公益的機能の維持増進を図る施策。	NO IMAGE
		長期育成循環施策		

用語の解説

かな	用語(表現)	用語の解説	イメージ
た	ちょうばつきせぎょう	通常、主伐が行われる年齢(例えばスギの場合40年程度)のおおむね2倍以上の年齢で主伐を行う森林施業の一形態。	
	長伐期施業		
た	ちよっかつじすべりぼうじぎょう	民有林内で大規模な地すべりが発生し、その復旧工事に高度な技術が必要な箇所等において、都道府県から要請を受けて国が行う事業のこと。	
	直轄地すべり防止事業		
た	ちよっかつちさんさいがいかんれんきんきゅうじぎょう	災害により新たに発生し、又は拡大した荒廃山地又はなだれ発生地につき、当該発生年に緊急に行う復旧整備に係る保安施設事業のこと。	
	直轄治山災害関連緊急事業		
た	ちよっかつちさんしせつさいがいふつきゅうじぎょう	林地荒廃防止施設又は地すべり防止施設が被災した場合の復旧事業のこと。	
	直轄治山施設災害復旧事業		
た	つーばいふおーこうほう(わくぐみかべこうほう)	木材で組まれた枠組みに構造用合板等を打ち付けた壁や床等で荷重を支える木造建築工法の一つ。枠組みとして多く使われる製材の呼称寸法が厚さ2インチ、幅4インチであるためツーバイフォー(2×4)工法と呼ばれている。	
	ツーバイフォー工法(枠組壁工法)		
た	つるきり	育てようとする樹木に巻き付くつる類を取り除くこと。通常、下刈りを終了してから、育てようとする樹木の枝葉が互いに接する状態になるまでの間に行う。	
	つる切		
た	でいーいーえむ(すうちょうこうもでる又はでむ)	地表面を等間隔の正方形に区切り、それぞれの正方形に中心点の標高値を持たせたデータのこと。	NO IMAGE
	DEM(数値標高モデル)		
た	ていこすとぞうりん	従来の造林作業と比べ、造林・保育の省略化等によりコスト削減を図る造林方法のこと。	
	低コスト造林(林業)		
た	てっこうすらぐ	鉄鋼製造工程において副産物として発生するもので、高炉スラグと製鋼スラグがある。林業専用道の舗装に利用されている。	
	鉄鋼スラグ		
た	てんねんこうしん	伐採跡地等において、主として天然力によって次の世代の樹木を発生させること。自然に落ちた種子が発芽して成長する場合と樹木の根株からの発芽(萌芽)等により成長する場合がある。必要に応じて、ササ類の除去や発芽後の本数調整等の人手を補助的に加えることもある。	
	天然更新		
た	てんねんせいりんせぎょう	森林を自然の推移に委ね、主として天然更新等の自然の力を活用して森林(天然林)を造成する森林づくりの方法。	
	天然生林施業		
た	てんねんりん	天然更新によって成立した森林。⇔人工林 さまざまな樹種やさまざまな大きさの樹木が混じっている。	
	天然林		
た	とくべつぱつとうくじょ	森林病害虫を駆除するため、被害木を切り倒して、細かく砕いたり、燃やすこと。	
	特別伐倒駆除		
た	とくべつぼうじょ	森林病害虫を駆除するため、空からヘリコプターを利用して薬剤を健康なマツに散布し、カミキリを駆除すること。	
	特別防除		
た	とくようりんさんぶつ	林野から産出される木材以外の産物。うるし、きのこ等。	
	特用林産物		
た	どせきりゅう	山の斜面から崩れた土砂や谷の土砂・石などが、大雨などによって水と共に一気に下流に流される現象のこと。	
	土石流		

用語の解説

かな	文字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
た	と	とれいる	森林や原野、里山などにある「歩くための道」のこと。	
		トレイル		
た	と	どろーん	無人航空機(UAV: Unmanned Aerial Vehicle)の通称で、人が搭乗することなく、遠隔地(地上)から操縦することができる航空機。山地災害の被害状況や森林の現況確認などに活用されている。	
		ドローン		
た	と	どろつぶねっと	空中に網を張り、シカが網の下にきた時に網を落として捕獲する罠のこと。	
		ドロップネット		
な	な	ならがれ	ナラ類が集団で枯れる「ナラ枯れ」は、「ナラ類集団枯損」、「ナラ類集団枯死」とも呼ばれ、カシノナガキクイムシ(Platypus quercivorus)が繁殖のため材内に穿入し、その際、持ち込まれた病原菌(Raffaelea quercivora: 通称ナラ菌)によって木が枯死する伝染病のこと。	
		ナラ枯れ		
な	な	なんようざい	フィリピン、インドネシア、マレーシア、パプアニューギニア、シンガポール、ソロモン諸島、ブルネイの7カ国から輸入される木材の総称。ホワイトラワン、イエローメランチ等。	NO IMAGE
		南洋材		
な	に	にほんうつくしのもり おすすめこくゆうりん	優れた自然景観を有するなど、観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森を「日本美しの森 お薦め国有林」として、有識者の意見を踏まえ、全国で93箇所選定している。近畿中国森林管理局管内においては、20箇所が選定されている。イメージは嵐山風景林(京都府京都市)。	
		日本美しの森 お薦め国有林		
な	に	にほんしんりんがっかい	日本森林学会は、1914(大正3)年に創立された、森林・林業を総合的に扱う日本で唯一の学会。環境の維持増進と林産物の供給などの森林の価値や機能に関する研究の発展に努め、国民ひいては人類の生活・文化の向上に貢献している。	NO IMAGE
		日本森林学会		
は	は	ぱーていくるぼーど	木材を細かく切削した小片に接着剤を添加して加圧した板状の製品。家具、構造材等に利用される。	
		パーティクルボード		
は	は	はーべすた	伐採、枝払い、玉切り(材を一定の長さに切りそろえること)の各作業と玉切りした材の集積作業を一貫して行う自走式機械。(harvest: 収穫する)	
		ハーベスタ		
は	は	ばいおます	「再生可能な生物由来の有機性資源で、化石資源を除いたもの」。バイオマスは、地球に降り注ぐ太陽のエネルギーを使って、無機物である水と二酸化炭素から、生物が光合成によって生成した有機物であり、ライフサイクルの中で、生命と太陽エネルギーがある限り持続的に再生可能な資源である。	
		バイオマス		
は	は	ばっき	主伐が予定される時期。または植えてから主伐するまでの期間で、地方、樹種で異なる伐期が設定されている。	NO IMAGE
		伐期		
は	は	ばつとうくじょ	森林病虫害を駆除するため、被害木を切り倒し、薬剤をかけたり、くん蒸すること。	
		伐倒駆除		
は	は	ばつふあーちいき	緩衝地域(世界遺産を保護するための周辺区域)のこと。	
		バッファー地域		
は	は	はんしゅつかんぱつ	利用間伐のこと。間伐した木を木材として利用するために林内から搬出されるためこう呼ばれる。	
		搬出間伐		
は	ひ	ひわだ	屋根葺手法の一つである檜皮葺(ひわだぶき)の材料で、ヒノキの樹皮のこと。	
		檜皮		
は	ふ	ふあいばーぼーど(せんいばん)	木材繊維に接着剤を添加して成形した板状の製品の総称。密度により、硬質繊維板(HB: ハードファイバーボード)、中質繊維板(MDF: ミディアムデンシティボード)、軟質繊維板(IB: インシュレーションファイバーボード)に区分される。	
		ファイバーボード(繊維板)		

用語の解説

かな	用語(表現)	用語の解説	イメージ
はふ	ふえらーばんちゃ	樹木を切り倒し、それをつかんだまま、搬出に便利な場所へ集積できる自走式機械。(fell: 伐倒する、bunch: 束ねる)	
	フェラーバンチャ		
はふ	ふおわーだ	玉伐りした材をグラブを用いて荷台に積載し、運ぶ集材専用トラック。(forward: 運送する)	
	フォワーダ		
はふ	ふくそうばつ	森林を複層状態にするために行う伐採のこと。	
	複層伐		
はふ	ふくそうりん	部分的な伐採(抜き伐り)と植栽を繰り返して育てることで、林齢や樹種の違いから異なる高さの樹木で構成された森林。	
	複層林		
はふ	ふくそうじょうたい	森林が樹齢や高さの異なる樹木から構成される状態のこと。	
	複層状態		
はふ	ふざいそんしんりんしよゆうしゃ	所有する森林とは別の市町村に居住する個人又は主たる事務所のある法人。	NO IMAGE
はふ	ふれあいのもり	地方公共団体や民間の団体と森林管理署等が協定を結び、自主的な森林整備活動を目的とした植栽、保育等の森林整備をするためのフィールドとして、また、そのような活動と一体となって実施する森林・林業に関する理解の増進に資する活動のフィールドとして国有林を提供するもの。	
	ふれあいの森		
はふ	ぶれかっと	住宅等の建築に必要な柱、梁などの部材を工場であらかじめ加工すること。	
	プレカット		
はふ	ぶるせっさ	伐倒木の枝払い、玉伐りと玉伐りした丸太の集積作業を一貫して行う自走式機械。(process: 加工する)	
	プロセッサ		
はふ	ぶろっと	対象地域に設定した点(調査地点)のこと。	
	プロット		
はふ	ぶんしゅういくりん	分収林制度の一つで、育成途上の森林について、契約相手方に費用の一部を負担してもらい森林を保育し、伐採後に収益を一定の割合で分け合う制度。	
	分収育林		
はふ	ぶんしゅうぞうりん	分収林制度の一つで、契約相手方が森林を造成(造林・保育)し、伐採後に収益を一定の割合で分け合う制度。	
	分収造林		
はふ	ぶんしゅうりんせいど	森林を所有する者、造林または保育を行う者、費用を負担する者の2者又は3者で契約を結び、森林を造成し、伐採後に収益を一定の割合で分け合う制度。国有林野事業における分収林は、契約相手方が造林・保育を行う「分収造林」と、育成途上の森林について、契約相手方に費用の一部を負担してもらう「分収育林」がある。	
	分収林制度		
はへ	べいざい	米国及びカナダから輸入される木材の総称。ペイマツ(ダグラスファー)、ペイツガ(ウエスタンヘムロック)等。	NO IMAGE
	米材		
はほ	ほあんりん	水源のかん養、土砂の流出や崩壊の防備、生活環境の保全・形成等の目的を達成するため、「森林法」に基づいて農林水産大臣等が指定する森林。指定されると、伐採等に一定の制限が課せられる。	
	保安林		
はほ	ほいく	更新後、伐採するまでの間に、育てようとする樹木の成長を促すために行う下刈り、除伐等の作業の総称。	
	保育		

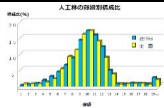



用語の解説

かな	文字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
は	ほ	ほうじんのもり	国と企業等がともに森林を造成・育成し、伐採後の収益を一定の割合で分け合う制度(分収林制度)で、既存の森林の整備を内容とする「分収育林」と、植林によって新たな森林を造成する「分収造林」の2つがある。	
		法人の森林		
は	ほ	ほくようざい	ロシアから日本に輸入される木材の総称。北洋カラマツ等。	NO IMAGE
		北洋材		
は	ほ	ほごりん	原生的な森林生態系からなる自然環境の維持、動植物の保護、遺伝資源の保存、施業及び管理技術の発展等に資することを目的として、区域を定め、禁伐等の管理経営を行うことにより、保護を図っている国有林野のこと。	
		保護林		
は	ほ	ほんすうちょうせいばつ	治山事業において行なわれる間伐のことであり、当該保安林機能の維持増進を主目的とした伐採のこと。	
		本数調整伐		
ま	み	みどりのかいろう	複数の保護林の間にある森林を「回廊」として設定し、野生動植物の生息・生育環境に配慮した施業を行うことにより、野生動植物の移動経路を確保し、生息・生育地の拡大と相互交流を促すための取組。	
		緑の回廊		
ま	み	みんゆうりんちよつかつちさんじぎょう	民有林内で大規模な山地崩壊が発生し、その復旧工事に高度な技術が必要な箇所において、都道府県から要請を受けて国が行う事業のこと。	
		民有林直轄治山事業		
ま	む	むくざい	接着剤を使わず製材品としてそのまま利用する木材。	
		無垢材		
ま	も	もくしつばいおますえねるぎー	木質バイオマスをエネルギー源として利用するもので、燃焼やガス化による発電、チップやペレットの燃焼による熱利用の方法。	
		木質バイオマスエネルギー		
ま	も	もくしつばいおますしげん	木材からなる「再生可能な生物由来の有機性資源」のことであり、主に、樹木の伐採や造材の際に発生した枝、葉などの林地残材、製材工場などから発生する樹皮やのこ屑などのほか、住宅の解体材や街路樹の剪定枝などの種類のこと。	
		木質バイオマス資源		
ま	も	もくしつぺれっと	おが粉等を15mm程度の小さな円筒状に成形したもので、ストーブ・ボイラーの燃料として使用。	
		木質ペレット		
ま	も	もくせいすじこう(もくさくこう)	間伐材を柵状に配置し、斜面表土の流出防止を図る工法のこと。	
		木製筋工(木柵工)		
ま	も	もくぞうじくぐみこうほう	日本の代表的な木造建築工法であり、木材の土台、柱や梁等で構成される軸組で荷重を支える建築工法。	
		木造軸組工法		
ま	も	もとかわし	檜皮(ひわだ)採取の職人のこと。	
		原皮師		
ま	も	もりのきよじんたちひやくせん	林野庁が平成12年に、次世代への財産として健全な形で残していくべき巨樹・巨木を中心とした森林生態系に着目して、国有林内の代表的な巨樹・巨木を選定したもの。	
		森の巨人たち百選		
や	や	やまくずれ	山の斜面が突然崩れ落ちる現象のこと。	
		山くずれ		

用語の解説

かな	文字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
や	や	やまのひ	美しく豊かな自然を守り、次世代へ引き継ぐことを銘記するため、平成26年に祝日法が改定され、国民の祝日「山の日(8月11日)」が制定、平成28年に施行された。	
		山の日		
や	ゆ	ゆうどうぼつ	長期育成循環施業の一環として、単層林が複層状態に至るまでの間に、下層樹木の更新や育成のために上層の樹木を抜き伐りする作業。	
		誘導伐		
や	ゆ	ゆうゆうのもり	学校、地方公共団体、NPOなどと森林管理署等が協定を結ぶことにより、子どもたちがさまざまな体験活動や学習活動を行うフィールドとして国有林を提供するもの。森林の利用を通じた子どもたちの人格形成や、幅広い知識の習得を行う場として利用されている。	
		遊々の森		
ら	ら	らいだーでーた	航空レーザ測量データのことで、植生の樹冠形成、樹高などが判読できる。	
		LIDARデータ		
ら	ら	らみな	集成材を構成するひき板や小角材のピースのこと。	
		ラミナ		
ら	り	りゆういきしんりん・りんぎょうかつせいかきょうぎかい	流域森林・林業活性化センターの構成員に、森林管理署、民有林労働者の代表等が加わり、流域内での取組についての合意形成を促進する場。流域森林・林業活性化センターの下で開催する。	NO IMAGE
		流域森林・林業活性化協議会		
ら	り	りゆういきしんりん・りんぎょうかつせいかせんたー	流域内の市町村、森林・林業・木材産業の関係者等から構成され、これらの関係者間の調整、合意形成の促進等を通じて、森林の流域管理システムを推進することを目的として設けられた組織。	NO IMAGE
		流域森林・林業活性化センター		
ら	り	りゆういきちすい	気候変動の影響による水害の激甚化・頻発化を踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させるという考え方。林野庁では、森林の保水力の維持・向上のための筋工等の設置や間伐等を行っている。	NO IMAGE
		流域治水		
ら	り	りゆうぼく	山間部で発生した土砂災害により河川や海に流れ込んだ樹木のこと。	
		流木		
ら	り	りゆうぼく・たちき	樹木が山に生えている状態のこと。	
		立木		
ら	り	りゆうぼくはんばい	樹木が立っている状態で販売する方法で、購入した民間事業者(素材生産業者等)が立木を採採・搬出し、丸太に加工して利用する。	
		立木販売		
ら	り	りんぎょういさん	日本各地の林業の歴史を読み解き、将来にわたって記憶・記録していくための試みとして、2013年度から日本森林学会による「林業遺産」選定事業が開始された。	
		林業遺産		
ら	り	りんぎょうせんようどう	主として特定の者が森林施業のために利用する恒久的公共施設であり、幹線となる林道を補完し、森林作業道と組み合わせ、森林施業の用に供する道をいい、普通自動車(10トン積程度のトラック)や林業用車両(大型ホイールタイプフォワード等)の輸送能力に応じた必要最小限の規格・構造を持つことにより、森林作業道の機能を木材輸送の観点から強化・補完するもの。	
		林業専用道		
ら	り	りんちざんざい	立木を丸太にする際に出る枝葉や梢端部分、森林外へ搬出されない間伐材等、林地に放置された残材。	
		林地残材		
ら	り	りんれい	森林の年齢。人工林では、苗木を植栽した年度を1年生とし、以後、2年生、3年生と数える。	
		林齢		

用語の解説

かな	文字目	用語(表現)	用語の解説	イメージ
ら	れ	れいきゆう	森林の年齢を5年の幅で括ったもの。人工林は、苗木を植栽した年を1年生とし、1～5年生を1年齢、6～10年生を2年齢と数える。	
		年齢		
ら	れ	れくりえーしょんのもり	全国の国有林を広く利用してもらうため、景観の優れた森林やキャンプ・スキーなどの野外活動、自然観察に適した森林などを人と森林とのふれあいの場として設定したもの。「自然休養林」「自然観察教育林」「風景林」「森林スポーツ林」「野外スポーツ地域」「風致探勝林」の6種類に区分している。	
		レクリエーションの森		
ら	れ	れつじょうかんぱつ	間伐の方法の一つ。作業の低コスト化等を目的に、伐採や搬出に都合の良いように一定の間隔で列状に間伐を行う方法。	
		列状間伐		
ら	ろ	ろもう	森林内にある公道、林道、林業専用道、森林作業道のこと。または、それらを適切に組み合わせ、道を網の目のように配置すること。	
		路網		